**市政をめぐる不正の実態と疑惑解明の課題について**

21.12.04　中野昭人

**1. たかはた保育園民営化事業の不正疑惑12月議会で浮き彫りになったこと**

1. **河内氏が全面的に関与・主導した事実と地主に利益供与を図っていた疑い**
2. **大坪市長が河内氏の動きを把握・承知の上で、補助金増額など全てを推し進めた実態**
3. **上記の事実と疑惑を前に、疑惑に蓋・幕引きができなくなった市長及び市議会の動揺**

**2.いよいよ真相・利権の構造・責任の所在を明らかにしていく重大局面４つの大問題**

**⑴ ８０００万円の補助金詐欺で有罪判決を受けた河内氏らによる川辺堀之内区画整理組合の会計偽装に関する全容解明**

1. 河内氏逮捕・有罪判決の根拠となっている会計科目偽装による補助金詐欺は平成３０年度のみ。しかし偽装は平成２５年度から行われておりその全容解明が必要。
2. 河内氏が得た庶務規定違反の報酬・手当総額は１億９０００万円超、理事・幹事等が得ていた庶務規定違反の報酬・手当総額は２億１３００万円、堀之内氏への不当な報酬は１１５０万円に及ぶ。返還とともに、その構造及び責任の所在の解明が必要。

**⑵ 川辺堀之内区画整理組合の不正、たかはた保育園民営化の不正疑惑の両方に、河内氏の意向で関与していた企業公社の事業実態及び会計に関する全容解明**

1. 組合業務を企業公社に受託させ、その後個人受託者として組合業務に参入し、企業公社への指導・助言業務を担っていた河内氏と企業公社との関係の全面的な解明。
2. 組合から企業公社の本社職員に平成２５年度から直接支払われていた不当な休日手当等に関する実態調査、歴代社長の関与・把握の実態、責任の所在に関する全容解明。
3. 全額補助金で賄われた民営化園への進入道路の拡幅整備事業の事務管理契約等を結んでいた企業公社の業務実態と補助金６００万円のお金の流れの全容解明

(**3**) **たかはた保育園民営化をめぐって河内氏が地主に補助金増額で便宜を図った疑い及びその見返りの有無に関する真相解明**

1. 第三者委員会の聞き取り調査に対する当時課長などの証言で、河内氏による補助金増額要求が重ねられていたことが判明。
* 家賃額について当時課長は、「河内氏より地主が損をしないようにしなければならないと。河内氏がこれでいいんだとのことで、ほぼ河内氏の提案通りの数字となった」と証言。
* ２億４０００万円の前家賃補助について当時課長は「発案は河内氏。河内氏の提案について市が了解し決定した」と証言。
* 内装費の追加工事については「開園の２ヶ月ほど前、河内氏より工事が遅れている。業者に泣いてくれという額ではなく追加で補助金が必要とのこと。」「河内氏がどうしても必要なものだとしてやることにした」と証言。
1. また、当時課長は、相次ぐ補助金増額要求で法外な事業費(総額６億円)となることを心配し、部長に相談していたことが明らかに。
* 補助金が大きくなっていることに当時課長は「事業規模がどんどん膨らみ前例のない金額となっていたのでこのままでいいのか、部長に相談したが、河内氏がやれということなので、これで進めるしかないとの答えがあった」と証言。
1. 第三者委員会も河内氏が地主の利益供与を図った疑いに言及。しかし、「そのことを認めるに足る具体的な事実は、本調査では明らかとはならなかった」と宿題的な結論に。

**⑷ 大坪市長は、たかはた保育園民営化への河内氏の関与・補助金増額要求の実態をどこまで把握していたのか、なぜ対応・是正しなかったのか、真相解明による責任の明確化。**

1. 大坪市長は、この民営化事業への河内氏が主導的に関与していたことを知っていた。
* 市長自身が「保育園の機能移転について、私自身、まちづくり部長として元副市長の関与を目の当たりにしていた」(第三者委員会報告に関する見解)と明言。
* 報告を受けていたのは子ども部長からかとの聞き取りに市長は「だと思う」と証言。
1. 知っていながら、河内氏の強引な補助金増額要求を受け入れ、必要な対応・是正を怠ってきた。
* １1月19日の議会で「相談が上がった時にそのままそれを認めてしまった」と答弁。
* 市長は荻原副市長について「この件で（荻原副市長と）どうするといったつめた話をした記憶はない」、河内氏と話をする考えはなかったのかの問いに「そういう必要性を思うこともなかった」と弁明。補助金増額要求をはじめとした河内氏の強引な動きを把握しながら、なぜ荻原副市長と話をしていないのか。なぜ河内氏本人と話をする必要がないと判断したのか。
1. 知っていながら、最近まで「把握していない」と議会で嘘をついてごまかしてきた。
* 市長は「本人が主観的に関わったということはあると思いますけど」(昨年６月議会)、「具体的にどのようなものであったかは把握しておりません」(同９月議会)と虚偽答弁を重ねてきた。
1. 市長に直接的で重大な責任があるにも関わらず、職員の公務員倫理の欠如を解く市長の無責任、統治能力の欠如があらわに！
* 河内氏の立場への認識を問われた当時課長は「絶対的な存在。河内氏の考えに反対、修正するなどは絶対にできない」と証言。
* 市長自身が昨年12月の職員へのメッセージで「当時の市長以上に市政全般を牛耳っていた、絶対的権限を行使していたと言える」と説明している。
* 市長は「本件に関わった職員が…異論を唱えることをしなかったのは…服務の根本基準や公務員倫理が欠如していたことが考えられます」「本来あるべき姿としては、河内氏の利益相反的行為を疑い、その行動に対し異論を唱えるべきであった。または相談するなど必要な措置を取るべきであったものと考えられます。」と職員の姿勢と対応を問題視。

**3. 議会の責任放棄、来年3月議会での幕引き許さず100条調査委設置等で全容解明へ**

**⑴ 疑惑解明のための調査特別委員会の設置を拒み続けている市議会与党。動揺も幕引き狙う！**

1. 昨年12月議会、今年6月議会の２回にわたって調査特別委員会の設置を提案するも与党各党は口を揃えて第三者委員会の結果を踏まえるべきだと反対・否決してきた。
* 「第三者委の結果を受けた上で…必要があれば…設置を検討すべき」(自民党)、「市側からの報告もされていない…設置に賛同できない」(公明党)、「…結論を待って考えるべき」(チーム日野)。
1. 「第三者委員会の報告を受けて」と言っていたのに、報告を受けた今回も設置に背！
* 請願に「継続審査」を表明した与党は、第三者委員会が不当とした３点について市が来年３月を目途に検証をすると言っていることを取り上げてまたぞろ先延ばし。

**⑵ 報酬削減で責任論をクリアし、市議選勝利、新議会での市長報告等、で幕引き狙う市長・与党。**

* **聞き取り調査に限界があったこと、市長等の関与・責任の調査は対象外だったことなどから、第三者委員会の調査及び報告書は、むしろ議会による調査解明の必要性を浮き彫りにしている。**